

## エッセイ 『老人と海』から学ぶ老いの生き方

## 英訳マルコ福音書を読む喜び

森泉弘次

日野原先生の「熟年の会」の入会資格は75歳以上だと記憶している。してみると、まもなく78歳になるわたしは十分な有資格者だ。しかし入会する気は毛頭ない。「熟年」という言葉に偏見があるせいかもしれない。この言葉を選んだ人は、ドイツの作家ヘルマン・ヘッセ（1877-1962）の晩年のエッセイ集のタイトル『人は成熟するほど若返る』から受けた良い印象のせいであろう。しかしわたしは **the mature man** という言葉より、**the old man** という言葉のほうがはるかに好きである。30代前半、道東の小さな道立高校で英語教諭をしていたころ、アメリカの作家ヘミングウェイ（1899-1961）の晩年の中編 **The Old Man and the Sea** をくりかえし読んで飽きなかった。「老人」という言葉に「経験を積んだ、忍耐強い、知恵者」という含意があることを改めて知った。

小説の主人公サンティアゴ老人は家族のない孤独なキューバの漁師で、メキシコ湾で自分の釣り船よりでかいマカジキを仕留めることを唯一の生甲斐に暮らしている。すでに84日間不漁続きにもかかわらず、彼は夜明けになると、小さい釣り船に釣り具をのせて、紫色の雲が水平線上に棚引くメキシコ湾の沖合へ出掛けて行く。漁村の一人の少年に見送られて、少年は老人を勇敢な漁師として尊敬し、憧れている。親が許さないため同船できないので、出発を見送り、帰港を出迎えることで我慢しているのだ。老人が独り暮らしでも淋しくないのはこの少年の存在ゆえであろう。それだけではない。老人はニューヨーク・ヤンキースの強打者ディマジオが大好きだ。不漁続きで気が滅入ると、ディマジオの雄姿を思い出して元気をとりもどす。**He makes difference.**（奴がいるだけで他のチームは震え上がる）。忘れられない言葉だ。まだ読んでいない人のためにこの辺でやめておこう。原書を辞書引き引き読む快樂は、2時間の映画版を見る快樂の10倍はある。わたしは40年前原書を10回以上読み、『老人と海』覚書まで書いた。

話は変わるが、わたしが MJM の若い会員の方々におすすめしたいのは、マルコ福音書を現代英語訳で読むことである。旧新約通読は今7回目だが、英訳版マルコだけに限ると20回を越えているかもしれない。最近 William Barclay の **The Study Bible; The Gospel of Mark** を愛読している。近藤慎三郎さんも原書を愛読している由。

昨夜教会の中高科礼拝説教の準備で同書のマルコ福音書1章の注解を読んだ。イエスがシモンとアンデレ兄弟の家に行ったとき、熱病で苦しんでいたシモンの姑を癒したときの記述「イエスがそばに行き、手をとって起こされると、熱は去り、彼女は一同をもてなした」（31節）の注解に **saved to serve** というフレーズが出てきて、このみ言葉の勘どころがずっと頭に入った。「救われて仕える」「癒されてもてなす」は「仕えるために救われる」「もてなすために癒される」とも訳せる。その辺が原書で読むと音の類似で一層よくわかるのである。

イエスの権威ある簡潔な言葉は、ある男に取り憑いた悪霊をも素直に退散させ（25, 26節）、癒しの奇跡を生むと同時に、主への感謝が即服従や他者への親切に実を結ばせる。新共同訳の名訳に感動すると同時に、優れた英訳を参照すると一層感動が深まること請け合いです。



## 例会報告

### 9月の例会

9月9日 管区事務所、会議室にて  
出席者：佐藤、阿部、森泉澄江、元村、三浦  
キャンドル会スタイルの聖書研究会。  
聖句：ルカによる福音書 10章から 25節から 37節（善きサマリア人のたとえ）

皆で輪読後、それぞれキャンドルのルールに従って、感じるがあった節に、マークをつけた。それを各自発表して、疑問に感じた箇所や、問題にしたい箇所、光を感じた箇所や、胸に突き刺さるような痛みを感じた箇所などを分かちあった。ひとそれぞれ違ったところでマークしたり、同じ箇所でもマークをしたりと、聖書が語りかけたメッセージを皆で分かち合うことができた。

イエスは、「わたしの隣人とは誰ですか」との質問に対して、わたしたちに、誰の隣人になるべきかを示された。言葉、宗教、民族にかかわらず、困窮している人の隣人になることである。

隣れみは律法の限界を越えて人を動かす。しかし我々は神への愛で満たされなければ、隣人を自分のように愛することはきわめて難しい。私達が永遠の命を受け継ぐためには、「行って、あなたも同じようにしなさい。」とイエスと言われるが、私達は神の愛によって精神的に支えられていることでなし続けられる。主に感謝。（三浦）

### 10月の例会

10月11日 塚田宅にて  
出席者：落合、清水、酒井、鈴木、柳生、三浦、塚田

10月例会は、聖オルバン教会信徒を中心とした月例の聖書の会を MJM 月例会として集い、共に分かち合った。平和の祈り、聖書の学びのはじめの祈り（大韓聖公会『日常祈禱書』より引用）のあと、翌主日の福音書、マタイによる福音書 22章 1節から 14節、「婚宴」のたとえを読み、NYの MJM での聖研スタイルで、ここから学びえたことを話し合った。

「この話のなかで、自分ならば、だれにあたるか？」との質問に、それぞれ答えた。婚宴の準備をしたもの、理由をつけて断った者、後から呼ばれて出席した者や呼びに行った家来など色々であったが礼服を着なかった者はいなかった。

町の大通りで招いた客の招待対象は全ての人であり、初めから善人・悪人という区別はされていません。招待への応答は、善き知らせを聞いた我々がそれを受け入れて、宴会場に入るか、それとも断り、遠く離れていくかどちらかを選択するかは自分自身の考えに因ります。招待を受け入れても、その者の失敗ゆえに入場を断られる人もいます。礼服を持っていること、持たないことの意味に囚われて行動を起こせない人もいます。さて、我々はどうしますか？（塚田、三浦）

### 11月例会

11月25日 管区事務所、会議室にて  
出席者：佐藤光子、廣内、森泉弘次、澄江、阿部、塚田、三浦

植松功さんをお迎えしてお話し。

♪イエスさまが生まれる この暗闇をてらすひかり♪  
繰り返し歌い心を整えました。

植松さんは、まず被災地の釜石市の様子を話してくださいました。ボランティアの数はまだまだ足りません。植松さんは、被災地を見に行くだけでもいいので行くべきだとおっしゃいました。

被災地では、カトリックもキリスト教団も聖公会も仲良く協力し合って活動している。教派をこえて、ともに働き、ともに食事をし、ともに祈ることが、ここでは普通に行われている。

10月の終わりMJMNYのためにニューヨークに滞在された。この様子は、寄留者で紹介されるでしょう。植松さんが今回一番行ってみたかった、High Line Parkを歩かれたそうです。ここは、鉄道の廃墟を公園にし、市民の憩いの場所でHPもあるそうです。

古いものを壊さず（伝統を守る）、クリエイティブに手を加えることで人をむかひいれる公園にNY市はここを変えました。これからの教会の未来像のようだと思われおっしゃいました。

話は変わりますが、キリスト教団のリトリートで、夜お話を頼まれて、おじゃましたところ、そこにいらしたのは、高齢者ばかり、用意していたお話をええねばと、礼拝堂で考えていたところ、十字架のイエスの像を見て、植松さんは、「死ぬこと、もうじきですね？」と切り出したそうです。「こわいですか？心配ですか？」と聞いてみると、色々な話を聞いた。歳を老いていくことは、できなくなることが増え、やがてすべてをうばわれていく。死ぬことはだれにでもやがて訪れることです。

植松さんは、死ぬことで、十字架のイエスと会うことができ、イエスとひとつになれる。神様の最大の恵みをいただける。復活の命をさずけられるのでおっしゃいました。

今年のAdventで何かテーマを考えていますか？とおたずねになりました。植松さんは、しばらく会わなかった人をアポなして訪ねてみるのはどうでしょうか？

「あなたに会いたくて用事はないけど会いにきました」と、会ってみてはどうでしょうか？用事がなくて会うことは少なくなっていると思いました。わたしは4人の人と会うことを心に決めました。

最後に聖書と詩篇を読み、祈りをささげました。（三浦）

### 12月 クリスマス会

12月13日（火曜日）聖アンデレ教会にて  
出席：森泉弘次、澄江、佐藤、阿部、三浦、坂下、土屋、元村

佐藤さんのピアノ伴奏、森泉先生のお話、全員参加の「クリスマスキャロルと聖書の朗読」でクリスマスをお祝いしました。

終了後は、元村さんの手作りカレーと阿部さんのケーキでおしゃべりを楽しみ、恒例のプレゼント交換で、毎年のことながら、温かな時間を過ごすことができました。

### 2012年1月例会

1月27日（金） 10時半～12時まで  
於：三鷹教会

「ささやく声が」 列王記上 19章1～13節

お話し： 平池牧師（三鷹教会）

出席者： 森泉夫妻、佐藤、三浦、山根

バアル信仰にはしって行くイスラエルに対抗していたエリアは、アハブから逃れていく。そして、力尽きて神さまに死を願う時に、神さまが通り過ぎて行かれる。その時に超自然現象が起きるが、そこに神さまはおられずに、静かにささやく声が聞こえる。

ささやく声が聞こえるのは、静かな祈りの時、なんでもない時に、その時に変化が起きる。助けを叫べない人たちにも。何も起きていない静かな時に神様の声を聴くこと、それは人生の分岐点になる。そして、エリアについてのお話があった。

担当：山根弘子

## 2月例会

2月29日（水）10：30～ オルバン教会にて

出席者：森泉弘次、森泉澄江、三浦万都美、阿部園子

映画会 「バベットの晩餐会」

1885年、デンマークのユトランドにある海辺の小さな村が舞台。父を監督牧師に持つ非常に信心深い二人の姉妹は、父亡き後も現在まで結婚をせず地元の信者達の面影を献身的に見ている。

わずかな数の老いた信者達は時々姉妹の家の集っては聖書を読んだり、賛美歌を歌ったり、亡くなった牧師を称えたりしていた。そこにフランス人であつてパリの有名なレストランで料理長をしていたバベットという女性が家政婦として働き始め14年後、姉妹の父の監督牧師の生誕100周年のお祝いの晩餐をバベットの申し出によって正式なフランス料理を作ることに……。

映画会の当日は雪でキャンセルも考えましたが、とりあえず集まれる人達で見ることに。4人とも非常に満足した映画鑑賞でした。DVDは担当の阿部のものですので、ご覧になりたい方はどうぞいつでもお貸しできます。また日本語の本もMJM東京のメンバーで回し読みしています。ご興味のある方はいつでもどうぞ。

担当：阿部園子

## 3月例会

日時：3月23日 管区事務所の会議室にて

出席者：山本、佐藤、辛島、阿部、塚田、坂下、三浦

テーマ：聖餐式

久しぶりに山本先生をお迎えして、聖餐式（ユウカリスト）について、聖公会、カトリックの祈祷書をみながら話し合った。山本先生は、MJMの良いところは、皆が活発に発言をすることだとおっしゃり、出席者の発言を期待された。

聖餐式の中で、祭壇で司祭がパンをさくが、これは、最後の晩餐でイエスは弟子の前でひとつのパンをさいて皆に分け与えた（マルコ14章12節から22節参照）ことを覚えてする。原始教会の信徒たちの交わりも、食卓を共にし、分かち合うことで、イエスとの交わりを忘れないでいた。そして、パンをさくことは典礼の中心となった。このパンは、なぜ種無しパンであったかは、色々な発言があった。

エジプトを脱出する際、パンが発酵する間もなく、急いで出たからとか、（発酵するのに8日間かかる）古いイースト菌を捨て、新しいイースト菌にする除酵祭の時期だと

か、これは、遊牧民の知恵だとか、イエス様が種無しパンをさいたのは、ユダヤ教の祭り中でのこととか。パンをさくのは、分かち合うことで共同体がひとつになることとか、十字架でイエス様のからださがされたことを覚えていることとか。色々な発言がありました。（三浦）

## 4月例会

4月6日（金）12：00～ 大森聖アグネス教会

受苦日礼拝と十字架の道行の礼拝

出席者：佐藤光子、塚田史子、森泉弘次、森泉澄江、阿部園子

ここ数年、受苦日には大森聖アグネス教会の受苦日礼拝にMJM東京の皆様も来ていただいています。アグネス教会の十字架の道行の絵もおなじみになり、聖週の締めくくり、イースターを迎える最も大切な時をMJM東京の皆様とアグネス教会の皆様と、静かにイエス様の十字架への道に思いを寄せることができることに感謝です。

たまたま絵を購入されたいさつをアグネス教会のオルガニストの方が話して下さりお恵みの多い Good Friday になりました。

## 5月例会

日時：2012年5月25日

場所：日本キリスト教団 新生教会

講師：新生教会 土橋晃牧師

「共感・共育・共働—教誨師活動の中で感じること—」  
聖書：ヘブライ人への手紙13章3節 「自分も一緒に捕らわれている積りで牢に捕らわれている人たちの思いやりなさい」

出席者：土橋牧師、阿部園子、三浦万都美、廣内光正（新生教会員）佐藤光子

テゼ共同体の唄「主こそまことの救い」を歌い佐藤の祈りの後土橋牧師のお話を聞いた。

土橋先生は日本キリスト教団の教誨師として20年府中刑務所で奉仕されている。東京ドーム5個分の面積を持つ国内最大の府中刑務所は収容人数2、923人、うち外国人448人、日本社会の縮図を反映し刑務所も高齢者、国際化の影響が見られる。収容者は全員男性、暴力団員、覚せい剤関係、強盗等の罪の判決を受け服役している人たちが再犯者が多い。そのうち三分の二が刺青をしている。IQが平均より低い人が多い。

教誨師の宗教はキリスト教、仏教、神道、最近ではイスラム教も入った。チャペルのほか夫々の宗教に専用の部屋も用意されている。国立の施設なので特定の宗教の支援はしない。

教誨には3つ種類がある。

集合教誨 聖書を読む、聖書の話をする、簡単な説教をする。

グループ教誨 集合教誨が少人数のグループに分かれる  
個人面談 マンツーマンでカウンセリング的な相談も受ける

以前は教誨中も刑務官が同席していたが現在は部屋の外で待つようになった。

洗礼を受けた人もいる。社会に復帰しどこかの教会員となり教会生活を経験してから洗礼を受けるのが理想だと思ったが今受けたいと請われ授けた。

衣食住が保証されていて人間にとって一番大切な自

由がない。教誨師の仕事は外界の自由な空気を吹き込み、友人として訪ね、心を開いて話をすること、話をよく聞くこと、と考えている。背景に家族が居て家族の愛情を知っている人と不幸にも人に愛された経験がない人では立ち直りが違う。愛が環境を変え人間を変えていくことがよく分かる。教誨師の働きも神様の愛を通して新しい人として変えられていくことを助けるのが仕事だと思う。犯罪を犯すことは資質でなく環境の影響が色濃い。

私たちは反社会的な犯罪を起こさないまでも皆神様の前では罪人である。パウロも自分は善い事を願っているのに悪い事をしてしまう、と嘆いている。しかし悔い改めることによって神様の大きな許しと恵みがある。

「ゼーレ・ゾルゲ、魂への配慮」が人との横の関係を越えて縦の神様との関係に届き我に返り魂の叫びに気づくようにと教誨師は願っている。

ある人は出所する時「これからは良いヤクザ(!)になります」と言った。

刑期を終えて社会で出たとき社会の受け入れも生易しいものではない。大きな課題だが受け入れられて教会に繋がる人もいる。

最後に絵本「山が好きになった小鳥」を紹介して下さった。孤独で暗い岩ばかりの山と飛んできた小鳥ジョイ(喜び)との友情を経て長い時間をかけて小川が流れ生き物が住む緑の山に変えられて行く物語でエリック・カールの絵とマクラレンの文章がびつたりの本である。孤独を癒す愛の力、希望を持って待つことの大切さを教えてくれた。

マザーテレサの言葉に「愛の反対は憎しみでなく無関心である」とある。心したい言葉である。

\*\*\*\*\*  
会が終わりいつものようにうなぎやさんに入り土橋牧師も共に楽しいランチを頂いて恵みの会を閉じた。

担当：佐藤光子

## 6月例会

6月例会

6月7日(木曜日) 聖アンデレ教会にて

出席：阿部、元村

聖アンデレ教会では、隔週木曜日に旧約聖書を学ぶ会として、現在”創世記”を読んでいます。今月例会は、その会に参加させて頂き、笹森司祭のナビゲートの下、旧約の世界の理解を深めることができました。

(創世記25・27章、「エサウとヤコブ」)

イサクの双子の息子達は各々個性を持つ。長男エサウは父イサクに可愛がられ、次男ヤコブは母リベカに可愛がられる。本来長子が持つ権利を母リベカの策略のもと、ヤコブはエサウから騙し取ってしまう。その事はエサウの怒りを買ひ、ヤコブの逃亡生活はそこから始まる。

親の偏愛・兄弟間の葛藤・・・旧約の世界ゆえ、その内容はすさまじい。おとぎ話のように展開する創世記の中で、人々に示していること・・・それは現代社会でも形を変えて起こり得ることであり、その中で私達がどう神と繋がっているか・・・と問われているに違いない!

担当：元村多恵

## 7月総会

7月4日(水) 10:30~

出席者：佐藤光子、森泉弘次、森泉澄江、元村多恵、三浦万都美、坂下千郷、阿部園子

### 1. 本年度の例会、TEKNAの報告・反省

昨年度20年を迎えたMJM東京、小人数ではあるが毎月の例会を超教派で行うことができたこと。また、クリスマス、イースター号で素晴らしいメッセージを共有することができたことを皆で感謝しました。例会の担当をお引き受け下さった皆様、クリスマス、イースターのメッセージをTEKNAに寄せてくださった久下牧師、辛島姉に特に感謝します。

少人数でも毎回素晴らしい分かち合いの場になっていることを皆で確認し、できれば来期は、MJM東京の例会をより多くの方との交わりの場になるように何かしては?という意見がありました。

特に毎回どんな少人数でも例会をお引き受け下さる植松さんの「テゼの会」。一度「テゼの会」に出席すると、そのとりこになってしまう方が多いと思います。各自の教会に植松さんをお呼びする機会も増えていますので、MJM東京の例会もそれぞれの教会でポスターでも作って宣伝しては?という意見があり今期の会は試みてみることにしました。

また皆様からの年会費や、献金などで数箇所へ献金をお捧げしてきましたが、来期はMJMNYへの献金のみとすることにしました。

## 2012年9月からの担当予定

9月12日(水) 10:30~12:30

キャンドル会(聖研) 管区事務所会議室

10月17日(水) 10:30~12:30

森泉先生によるトルストイ 管区事務所会議室

岩波文庫「イワンのばか」の必ず読んで欲しいのは「人にはどれほどの土地があるか」です。他の23篇も読んで欲しいそうです。

11月28日(水) 10:30~12:30

植松 功さんによる「テゼの会」管区事務所会議室

12月5日(水) クリスマス会(新生教会)

今年は聖餐式のお礼拝をします!

## 2013年

1月 三鷹教会 担当：山根姉

2月 担当：坂下姉

3月29日 受苦日礼拝 大森聖アグネス教会

4月 担当：山本兄

5月 新生教会 担当：佐藤姉

6月 アンデレ教会 担当：元村姉

7月 総会

TEKNA 8月号 阿部

クリスマス号 投稿文

イースター号 久下牧師

☆年会費のお振込みをお願いします。